

救急処置に関する教職員の知識の普及を目指して

～実態調査を踏まえた教職員研修～

1 主題設定の理由

文部科学省は「学校事故対応に関する指針」において、「事故直後は、まずは被害児童生徒等の医学的対応（応急手当）を行う。学校内での情報共有等も大事であるが、まずは被害児童生徒等の応急手当を最優先で行うことに十分留意することが必要である」と述べている。

学校では救急処置が必要とされる場面は多く、養護教諭以外の教職員が初期対応をするとも少なくない。そのため、教職員にも救急処置の基本的な知識と技術は必要であるが、救急処置に関して学ぶ機会が少ないため、個人差があると考えられる。また、救急処置の経験が少ない教職員が適切な対応を行うことは難しく、不安を感じるという声も聞かれる。

そこで、教職員と養護教諭の救急処置に関する調査を行い、知識と対応の差を埋め知識を補う内容の研修を行うことで、適切な初期対応を行える教職員が増えるのではないかと考え、本主題を設定した。

2 研究仮説

- (1) 教職員と養護教諭の救急処置に関する調査を行い実態を把握することで、知識と対応の差が明らかになるであろう。
- (2) 基本的な救急処置について教職員を対象に研修を実施し、知識を得ることで不安が解消され、適切な初期対応について意識を高めることができるであろう。

3 研究内容

- (1) 救急処置（外傷）に関する正しい知識や対応への不安についての実態調査
- (2) 教職員研修の実施
- (3) 研修前後のアンケートの実施

4 結論

- ・救急処置に関する調査を行い、分析することで実態を把握し、教職員と養護教諭の知識と対応の差を明らかにすることができた。
- ・救急処置に関する研修を実施することで、知識や意識を高めることができ、教職員の初期対応に関する不安が減った。
- ・不安なく適切な初期対応を行える実践力を身につけるために、救急処置に関する研修の充実と継続的な実施が必要である。



1 部会 佐倉市・酒々井町養護教諭会

提案者 佐倉市立弥富小学校 山田 亜希子

佐倉市立臼井南中学校 萩原 絵里

1 はじめに

文部科学省は、平成28年3月に「学校事故対応に関する指針」を策定した。その後、組織的に事故の未然防止、事故発生時の適切な対応等に実効性をもって取り組めるよう、令和6年3月に改訂版が示された。この指針では、「事故直後は、まずは被害児童生徒等の医学的対応（応急手当）を行う。学校内での情報共有等も大事であるが、まずは被害児童生徒等の応急手当を最優先で行うことに十分留意することが必要である」と述べられている。

学校において救急処置が必要とされる場面は多く、養護教諭以外の教職員が初期対応をすることも少なくない。そのため、教職員にも救急処置の基本的な知識と技術は必要であるが、救急処置に関して学ぶ機会が少ないため、個人差があると考えられる。また、救急処置の経験が少ない教職員が適切な対応を行うことは難しく、不安を感じるという声も聞かれる。

一方、養護教諭は、保健室来室前の適切な初期対応が、予後良好につながるとともに、児童生徒の不安感を和らげると感じている。しかし、実際には十分な手当てがなされないまま来室することがある。

そこで、教職員と養護教諭の救急処置に関する調査を行い、知識と対応の差を埋め知識を補う内容の研修を行うことで、適切な初期対応を行える教職員が増えるのではないかと考え、本主題を設定した。

2 研究仮説

- (1) 教職員と養護教諭の救急処置に関する調査を行い実態を把握することで、知識と対応の差が明らかになるであろう。
- (2) 基本的な救急処置について教職員を対象に研修を実施し、知識を得ることで不安が解消され、適切な初期対応について意識を高めることができるであろう。

3 研究経過

年度	内容
令和4年度	5月 研究テーマ検討 8月～ 実態調査の作成 12月 養護教諭を対象に実態調査の実施 1月～ 教職員を対象に実態調査の実施 2月～ 実態調査 集計・分析
令和5年度	5月 実態調査結果の集計・分析及び教職員と養護教諭の比較考察 8月 教職員研修の方法検討・資料作成 10月 教職員研修 PP 作成、解説資料作成 教職員研修 事前事後アンケート作成
令和6年度	6月～ 事前アンケート調査・教職員研修の実施 7月 事後アンケート調査の実施 8月～ 事前事後アンケートの比較考察

4 研究内容

(1) 救急処置に関する教職員及び養護教諭の実態調査

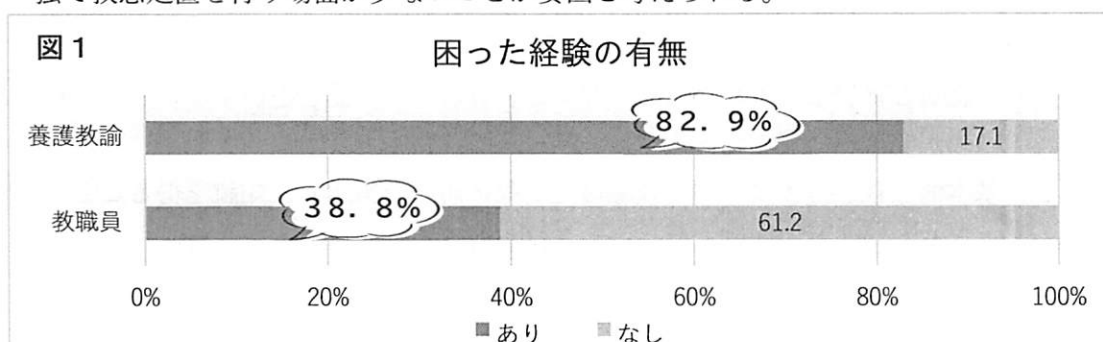
- 【調査対象】 佐倉市・酒々井町小中学校の養護教諭 41名
佐倉市小・中学校（抽出13校）の教職員（事務・栄養士除く）294名
- 【調査期間】 令和4年12月～令和5年2月
- 【調査方法】 Microsoft Forms アンケート調査（資料1-1）
- 【調査内容】 救急処置について：選択肢式
救急処置での困りや疑問等について：記述式

質問1	回答者の情報	質問2	救急処置の対応で困った経験
質問3	困った内容	質問4	救急処置の知識
質問5	救急処置研修への興味	質問6	救急処置への疑問や知りたいこと等

【結果と考察】

① 救急処置の対応で困った経験があるか

「救急処置の対応で困った経験があるか」の問いに「ある」と回答した割合は、養護教諭の82.9%と比較し、教職員は38.8%と低いことがわかった。教職員は、単独で救急処置を行う場面が少ないことが要因と考えられる。



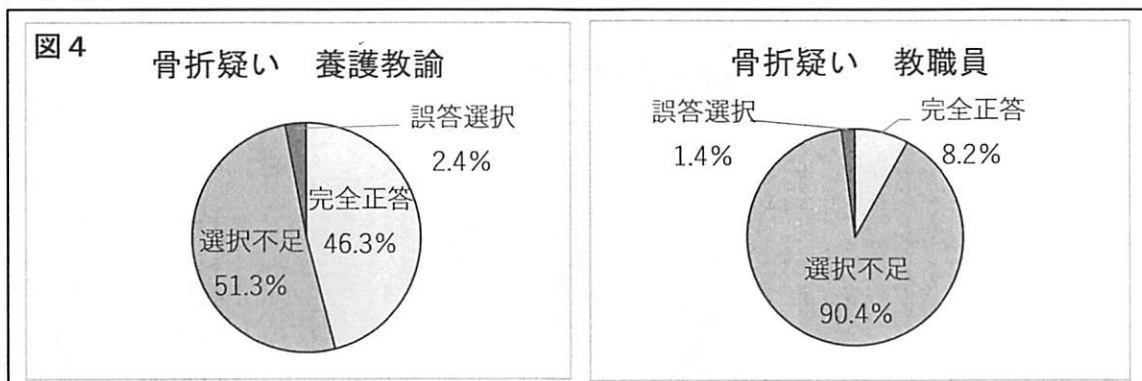
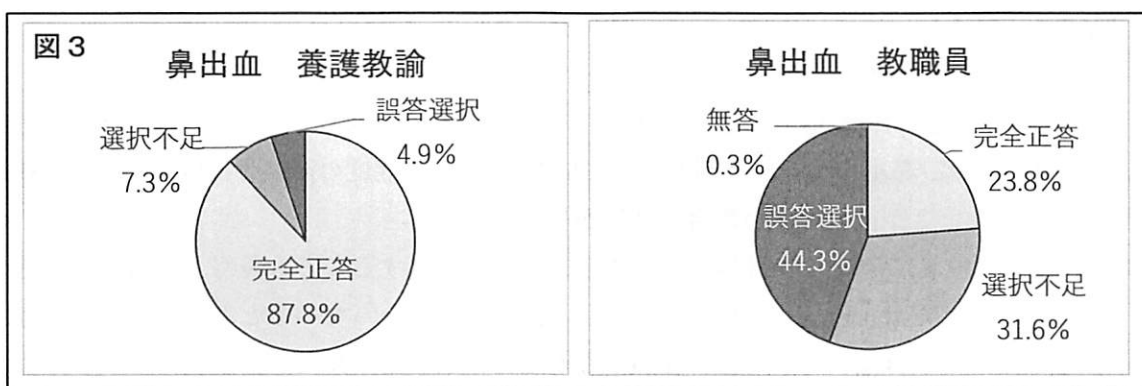
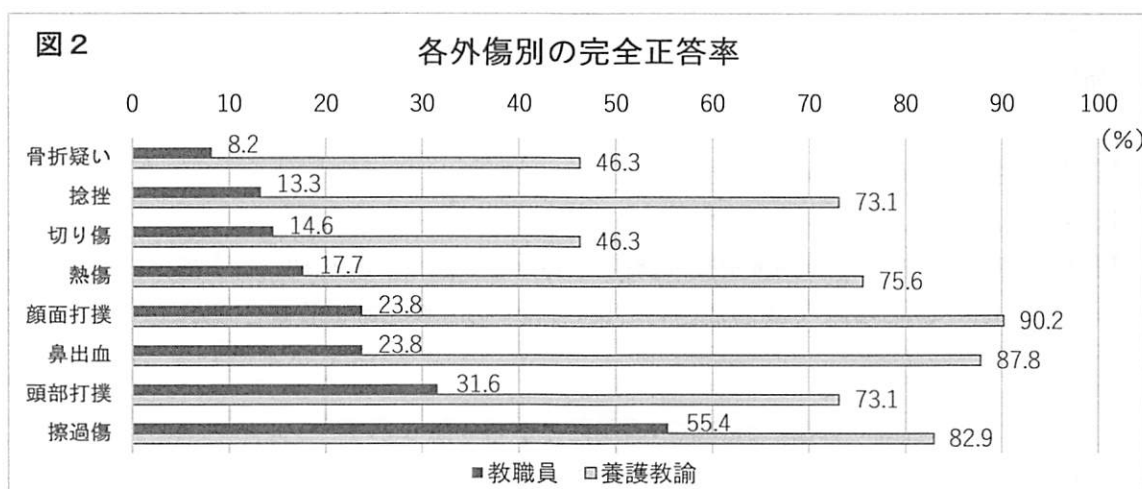
<困った内容（教職員の回答を一部抜粋）>

- ・捻挫の応急処置について、上手く処置できず、困った。
- ・休日の部活動では養護教諭がいないので、ケガがあった時は対応に困った。
- ・公式戦試合中にボールを追って転倒し、顔面と歯を打撲した。外見上はケガの大きさがすぐに判断できなかったことと、試合継続中のレギュラーであったこともあり、判断に迷った。

② 教職員の救急処置に関する知識について

教職員と養護教諭の救急処置に関する知識を比較し、各外傷別の完全正答率を調査した。その結果、全ての外傷において教職員と養護教諭の間で正答率に差が見られた（図2参照）。教職員は誤答を選択する確率が高く、正答率が低かった。一方、養護教諭は正解の選択肢を選んでいないものの、全ての正解選択肢を選びきれていないため、完全正答率が低いことが示された。（※誤答・選択不足の説明については、資料編1-5参照）

教職員は、救急処置を専門的に学ぶ機会や実際に対応する機会が少ないことも、正答率の低さの一因と考えられる。



実態調査①の結果から図1の通り、養護教諭の困った経験は82.9%と高いことが示された。救急処置に関して誤答率は低かったが、基本的には学校に一人しかいない職種であるため、救急処置の責任を担う立場上、不安を感じる場面が多い。また、常に進化する救急処置の技術やガイドラインに対応しなければという心理的な負担が不安な気持ちにつながったと考えられる。

教職員は救急処置についての知識が不十分であることに気が付かないまま、児童生徒の事故に直面した際に誤った救急処置を行ってしまう可能性があることが明らかになった。具体的には、①の結果では、教職員の困った経験が38.8%と低く、不安も少ないことが示されたが、②救急処置の知識を問う問題では、完全正答率の平均が23.6%と低かった。このことから、教職員の救急処置に関する研修の必要性を感じた。

また、「困った内容」の具体的記述からは、救急処置だけでなく、重症度及び受診の判断や保護者への説明、救急車の要請についても不安な声が多く聞かれた。

(2) 研修前のアンケート調査

【研修対象】 実態調査を行った学校（13校）と研修希望校（1校）の教職員307名
（事務・栄養士除く）

【調査期間】 令和6年6～7月

【調査方法】 Microsoft Forms アンケート調査（資料2-1）

【調査内容】 選択肢式質問紙調査（資料2-1）「そう思う」「やや思う」「どちらともいえない」「あまり思わない」「思わない」の5件法選択肢式とした。

質問1 回答者の情報

質問2 救急処置（外傷）の対応が適切にできると思うか

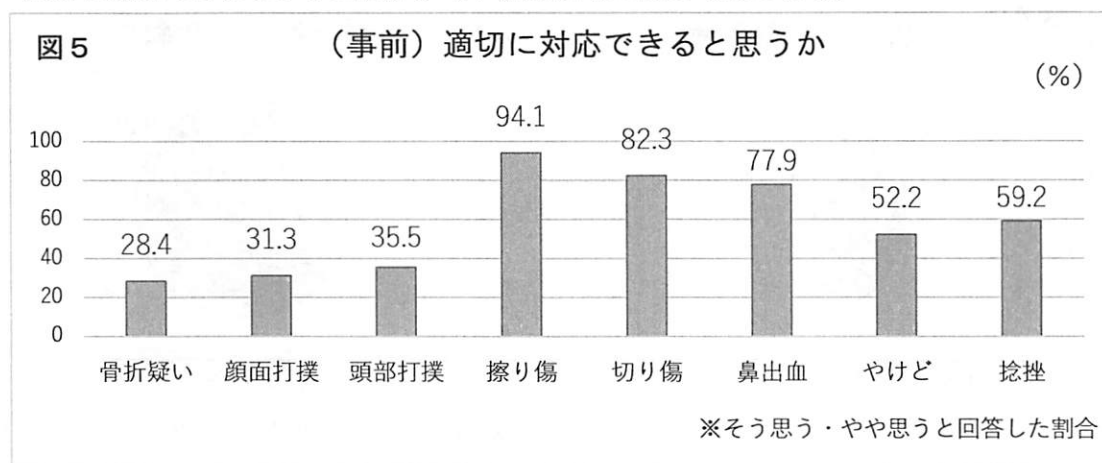
質問3 救急処置を行うことについて不安があるか

【結果と考察】

①救急処置（外傷）の対応について

質問2「適切に対応できると思うか」の問いに、「そう思う・やや思う」の回答は擦り傷や切り傷、鼻出血は7～9割を超えていた。一方、重症度の高い骨折疑いや顔面打撲、頭部打撲は3割前後と低い割合の結果が見られた。

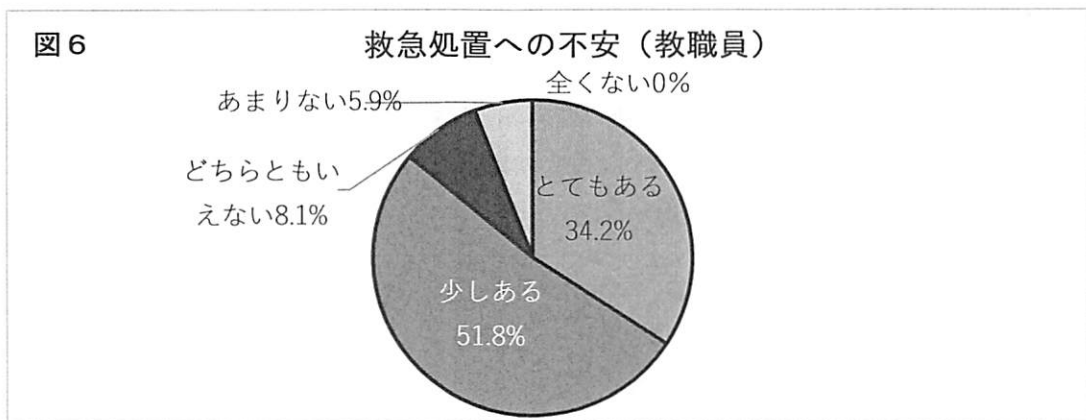
日常的に起こりやすい外傷については、一人に対応することも多く、処置後の経過も予想できるため、適切に対応できるという回答が多くなっていると考えられる。一方、重症度の高い外傷については、知識がなかったり予後も予想できなかったりするため、適切に対応できるという回答が少ない結果となったと考えられる。



②教職員が感じる救急処置の不安について

質問3「救急処置に不安があるか」の問いに「とてもある」34.2%、「少しある」51.8%の回答であった。合計すると86.0%になり、救急処置への自信のなさや不安があることがうかがえる結果となった。図1「救急処置で困った経験があるか」

図2「各外傷別完全正答率」図3「適切に対応できると思うか」からも、単独で救急処置にあたるという具体的場面を想定したときに知識や経験が不足していることを実感し、不安があるという結果に表れたと考えられる。



以上の結果から、救急処置について不安を抱えている教職員は多いことがわかった。この不安を軽減することで、適切な初期対応を行える教職員が増えるのではないかと考える。

（３）教職員研修

①教職員研修「けがの手当てクイズ」の作成（資料3-1・2）

基本的な応急処置に絞り、○×で回答できるクイズを Microsoft PowerPoint で作成した。なお、本研究において「基本的」に含む外傷は以下の通りとした。

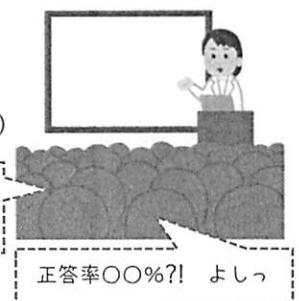
- ・日常的に起こりやすい外傷（擦過傷・切り傷・鼻出血・捻挫）
- ・重症度が高く、初期対応が予後に影響する外傷（やけど・顔面打撲・頭部打撲・骨折疑い）



- ・先生方は忙しいから研修は短時間集中！パワポは10分以内に収めて…。
 - ・○×問題にして直感で答えられるようにしよう。
 - ・事前アンケートの正答率を入れて、難易度をアナウンスしたらやる気UPするかな？
 - ・どうせなら楽しく学んで欲しいな。効果音を入れてみよう！
 - ・音声読み上げソフト「音読さん」^{©※}を使用すれば便利ね！
- （※無料で利用できる音声読み上げサイト）

②教職員研修の実施

各校の養護教諭が講師となり、それぞれの学校にて教職員全体で「けがの手当てクイズ」をみながら各自回答用紙に記入した。また、クイズ実施後に詳しい解説編のプリントを配付した。（資料3-3）



（４）研修後のアンケート調査

【研修対象】 実態調査を行った学校（13校）と研修希望校（1校）の教職員307名（事務・栄養士除く）

【調査期間】 令和6年7月

【調査方法】 Microsoft Forms アンケート調査（資料4-1）

【調査内容】 選択肢式質問紙調査（資料4-1）質問1, 2, 3「そう思う」「やや思う」「どちらともいえない」「あまり思わない」「思わない」の5件法選択肢式とした。
質問4は記述式とした。

質問1 対応に自信がもてたか

質問2 知識の確認ができたか

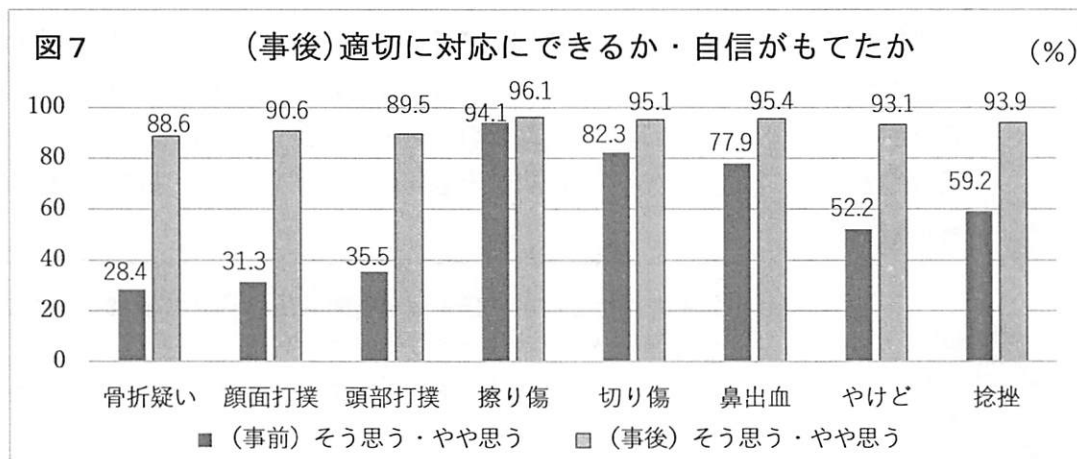
質問3 新しく知識を得たか

質問4 研修及び救急処置に関する感想等

【結果と考察】

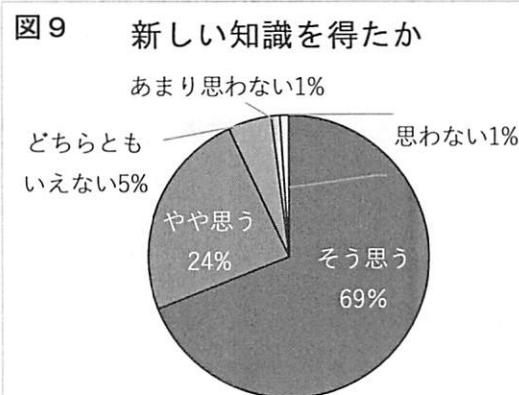
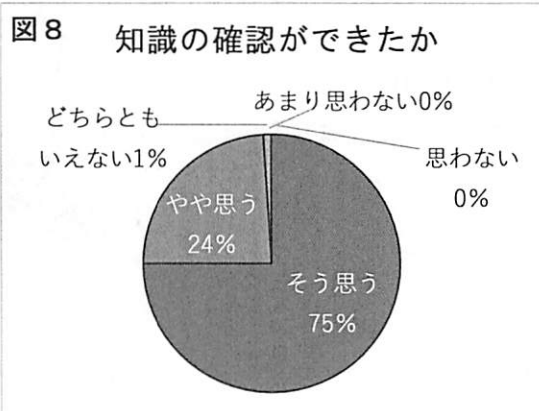
①救急処置（外傷）の対応について

事前アンケートでは、重症度の高い項目（骨折疑い・顔面打撲・頭部打撲）に対する対応が3割程度と低い回答だった。しかし、事後アンケートでは、すべての項目において適切な対応ができるという回答が約9割に達し、大幅な上昇が見られた。



②知識の確認及び習得について

事後アンケートの質問②「知識の確認ができたか」の問いに「そう思う」と回答した割合は75.0%で、質問③「新しく知識を得たか」の問いに「そう思う」と回答した割合は69.0%であり、ともに高いことがわかった。質問①「対応に自信が持てたか」の質問と比較すると、知識が得られていることがわかった。



くけがの手当てクイズ、救急処置全般についての感想（一部抜粋）＞

- クイズ形式で楽しみながら、知識を深め、確認することができた。
- 昔と今の対応の違いがわかり、アップデートの必要性を感じた。
- 養護教諭不在時も解説編で確認しながら、適切な対応をしたいと思う。
- 中学生の保健体育の授業にも活用してみたい。
- 正しい知識があっても、救急処置の判断と対応に不安がある。
- 知識だけでなく、実践的な勉強もしてみたい。
- 定期的にブラッシュアップできるよう、継続して研修できる機会があると良い。

5 研究の成果と今後の課題

（１）研究の成果

- 教職員と養護教諭に救急処置に関する実態調査を行った結果、養護教諭は専門的な知識を持っている一方で、誤った情報を正しいと思い対応する教職員が多くいることがわかった。この調査で、知識と対応の差を明らかにすることができた。
- 基本的な救急処置について教職員研修を行ったことで、正しい知識を得ることができた。また、そのことにより救急処置に対する理解が深まり、行動への意欲を高めることができた。教職員研修後のアンケートでも、「正しい知識を得られてよかった」などの高評価を得られた。

（２）今後の課題

- 教職員が養護教諭不在時に救急処置を行う場面も想定される。そのため、初期対応に関する正確な知識を教職員が身につけ、不安なく実施できるようにするためには、教職員研修を充実させ、継続的に実施する必要がある。
- 教職員研修を通して、知識は得られたが、対応について自信がないと回答した教職員もいた。今後、実技研修やシミュレーションを取り入れ、教職員が実際の場面で適切かつ迅速に対応できる能力を養うことが求められる。

<参考文献>

- ・学校事故対応に関する指針【改訂版】 (文部科学省 令和6年)
- ・改めて研究と向き合う教員のためのウォーミングアップ・ブック「研究構想シート」 (島根県立浜田教育センター)
- ・白クマ先生の子ども診療所 HP (日本医師会 鈴木 洋)
- ・応急手当 (外傷) (日本赤十字社)
- ・保健室で役立つ ステップアップ フィジカルアセスメント (東山書房)
- ・一般社団法人 日本創傷外科学会 HP
- ・日本歯科医師会 HP
- ・公益社団法人 神奈川県歯科医師会 HP
- ・北海道医師会 救急医療部 HP
- ・国際医療福祉大学成田病院救急科部長 志賀隆 HP
- ・豊田厚生病院 HP
- ・川越駅前胃腸・肛門クリニック HP
- ・益田市医師会 HP
- ・村田歯科医院 HP

<共同研究者>

内郷小学校	栗谷川雪恵	弥富小学校	山田亜希子	井野小学校	山田夕美子
西志津小学校	佐々木璃音	佐倉中学校	窪谷久美子	志津中学校	小林郁美
井野中学校	南節子	西志津中学校	南雲麻佑子	白井南中学校	萩原絵里
根郷中学校	須藤聡子	佐倉市教育委員会	宮瀬麻子		
小澤雅美	鈴木あゆみ				

資料編



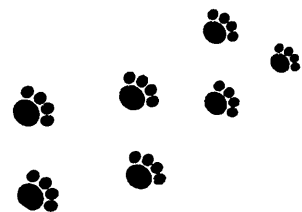
©Sakura City

シリあがりねこ

佐倉市広報キャラクター「しりあぶりねこ」

江戸時代、佐倉藩士によって書かれた記録書『古今佐倉真佐子』(ここんさくらまさご)にある「寒夜の時に大猫が3～4匹集まる。猫たちは土器をくわえて来て、土器に炭を入れて火をおこし、交替で尻を火であぶっている」という記述をモチーフに誕生しました。

のんびりだけど達観している
友達思いな男の子
あたたかいところとマタタビが好き
暖をとるときはおしりから
食べ物などもあぶりがちで
たまに焦がしてしまうことも…



救急処置に関する実態調査(教職員・養護教諭)

資料1-1

問 2 過去にご自身が関わった救急処置（外傷）の中で、1つ印象に残っている対応で困った経験について、お答えください。

8. 救急処置（外傷）で困った経験の有無

☐ 有

☐ 無

9. 8で有と回答した方は、救急処置（外傷）対応時の状況についてお答えください

答えの選択

▽

10. ①時間帯

答えの選択

▽

11. ②場所

答えの選択

▽

12. ③けがの部位

答えの選択

▽

13. ④けがの種類

答えの選択

▽

14. ⑤問2の救急処置（外傷）で困った(迷った)内容に近いものをあてはまる項目を選んでください。

	1.とても困った(迷った)	2.少し困った(迷った)	3.どちらともいえない(該当しない)	4.あまり困らなかった(迷わなかった)	5.困らなかった(迷わなかった)
A. 処置の方法	☐	☐	☐	☐	☐
B. 救急用品の保管場所	☐	☐	☐	☐	☐
C. けがの重症度の判断	☐	☐	☐	☐	☐
D. 病院受診の判断	☐	☐	☐	☐	☐
E. 病院の診療科の選択	☐	☐	☐	☐	☐
F. 診察時間外や休診時の受診方法	☐	☐	☐	☐	☐
G. 救急車要請の判断	☐	☐	☐	☐	☐
H. 救急車要請の方法	☐	☐	☐	☐	☐
I. 保護者への説明(タイミング...)	☐	☐	☐	☐	☐
J. 保護者への説明(内容)	☐	☐	☐	☐	☐

問3 救急処置についてお聞きします。先生や児童生徒が以下のけがをした時、どのように対応しますか。

以下の8つの質問項目について行うと思う対応全て選択してください。

16. 擦過傷（すり傷）

場面：校庭で転倒し、膝から少し出血した。

- ☐ A. 傷口を水道水でよく洗う
- ☐ B. 洗わずに絆創膏やガーゼなどで傷口を覆う
- ☐ C. 傷口を清潔にした後、絆創膏やガーゼで覆う
- ☐ D. 傷口を乾燥させる

17. 切り傷

場面：カッターで指先を切り、少量であるが、持続的に出血している。

- ☐ A. 傷口を水道水でよく洗う
- ☐ B. 傷口を絆創膏やガーゼなどで押さえて圧迫する
- ☐ C. ガーゼは血が渗んだら速やかに交換する
- ☐ D. 出血してる場所を心臓より高くする
- ☐ E. 指の根元を輪ゴムで圧迫する

18. 鼻血

場面：暑い日に、授業中に突然鼻血が出た

- ☐ A. ティッシュを鼻孔に詰める
- ☐ B. イスなどに座らせ、頭をやや前に傾ける
- ☐ C. 頭を後ろにそらせる
- ☐ D. 首の後ろをトントンとたたく
- ☐ E. 鼻の両側の鼻翼（小鼻）をしっかりとつまむ

19. 熱傷（やけど）

場面：給食の配膳中に、シチューの食器をひっくり返し、腕をやけどした

- ☐ A. 流水で冷やす
- ☐ B. 衣服の上からやけどした時は、衣服を取ってから処置をする
- ☐ C. 患部を清潔なガーゼやタオルで覆う
- ☐ D. 消毒液・軟膏を塗布する
- ☐ E. 水疱（水ぶくれ）が出来た時はつぶす

20. 捻挫

場面：運動をしていて足首を捻った

- ☐ A. 患部を冷却する
- ☐ B. 患部を高く上げる
- ☐ C. 関節がぐらつかないように包帯で固定する
- ☐ D. 患部をマッサージする

21. 打撲 ①顔面打撲

場面：体育館でバスケットボールをしていて、強いパスが口周辺に当たった

- ☐ A. 患部を冷却する
- ☐ B. 歯の状態（ぐらつき、欠け、変形など）を確認する
- ☐ C. 歯が欠けたり抜けたりした場合は、よく洗って歯科医へ持参する
- ☐ D. 乳歯の場合は特になにも行わず放置する
- ☐ E. 出血がある場合は止血する

22. 打撲 ②頭部打撲

場面：濡れた廊下で転倒し、床に後頭部を打った

- ☐ A. 頸椎損傷の場合もあるので、首を動かして観察してみる
- ☐ B. 吐き気や嘔吐がないか確認する
- ☐ C. 1時間は安静にして経過観察する
- ☐ D. 患部を冷却する
- ☐ E. 意識が不明瞭となってきた場合は、体を揺り動かしたり刺激を与えるようにする
- ☐ F. 耳や鼻から血液や透明な液（髄液）が漏出した場合、詰め物をする

23. 骨折疑い

場面：鉄棒から転落し、腕を地面について痛めた

- ☐ A. 貧血を起こしていないか確認する（顔面蒼白、冷や汗）
- ☐ B. 患部を冷却する
- ☐ C. 変形部位を元に戻す
- ☐ D. 変形や、関節の動きに異常がなければ骨折は疑わない
- ☐ E. 患部を心臓より高く上げる
- ☐ F. 固定後は最も楽な体位で休ませる

問4 先生がこれから習得したいと考える救急処置についてお聞きます。

24. これから救急処置の講習を受ける機会があれば、その講習を積極的に受けたいと考えますか

- ☐ A. 受けたいと思う
- ☐ B. 特に受けたいとは思わない

25. 受けたい（学びたい）救急処置の種類は何ですか。（複数回答可）

- ☐ A. 擦過傷（すり傷）
- ☐ B. 切り傷
- ☐ C. 鼻出血
- ☐ D. 熱傷（やけど）
- ☐ E. 捻挫（突き指を含む）
- ☐ F. 打撲
- ☐ G. 骨折（疑いを含む）
- ☐ H. 心肺蘇生法・AEDを用いた除細動
- ☐ その他

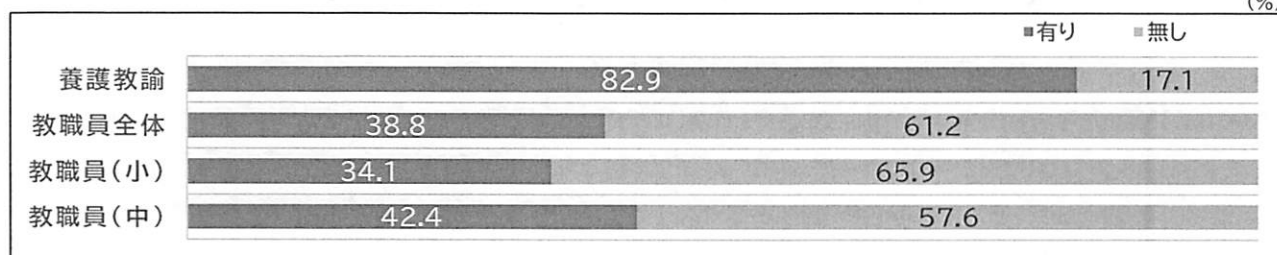
26. 救急処置について何か知りたいこと、疑問などがありましたら自由にご記入ください

回答を入力してください

【質問 2 救急処置の対応で困った経験】

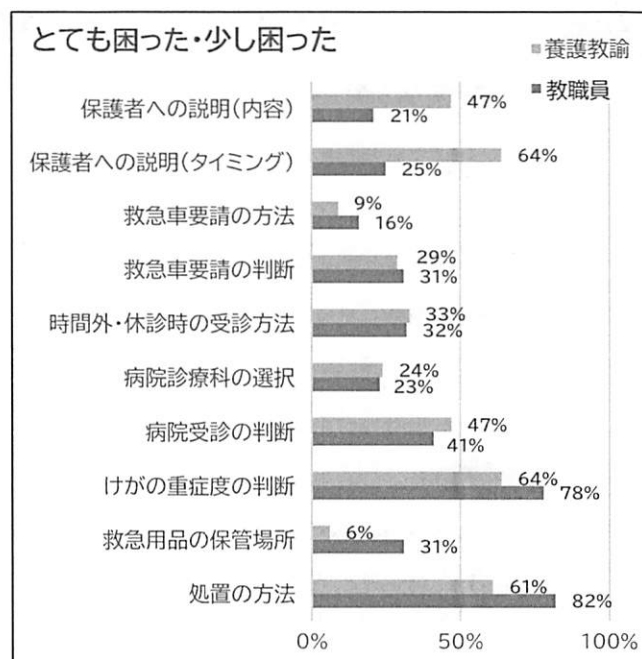
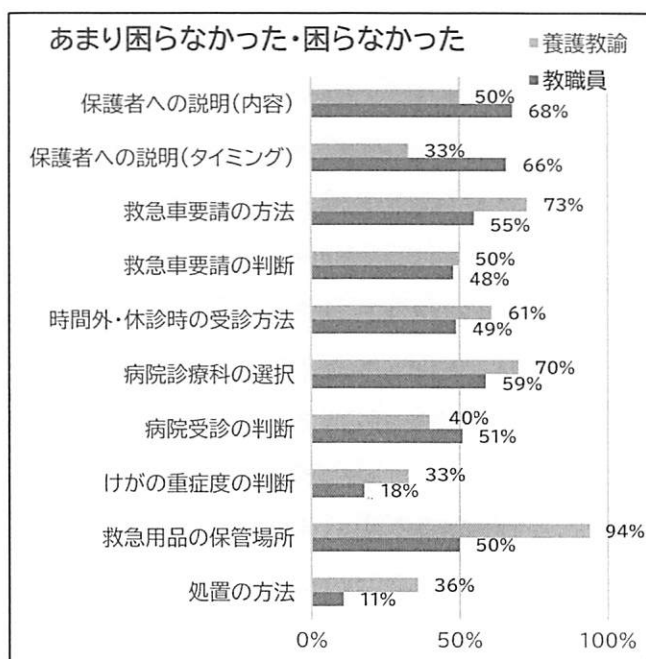
資料1-2

・救急処置で困った経験がありますか。



【質問 3 困った内容】

資料1-3



資料1-4

小学校教職員

* 原文のまま掲載

- ・授業中に何かあった時に、他の児童もいる中での対応が大変である。
- ・腕を骨折しているときなど、無理に起こしたり、動かすと危ない場合もあるため、そういった処置について困った。
- ・はみがき後にうがいをしにいく時、他の児童とぶつかり啜っていた歯ブラシが歯茎に当たってしまった。血が結構出ているので対応するのに焦ってしまった。
- ・学校では本人の痛みで判断し、養護教諭が応急処置をしたとしても、下校後痛みが増してきたり、学校では言えなかったなどと本人がいじめ始めて、受診→大けがにつながった経験がある。
- ・歯が抜けたとき、歯を保存する液体に入れて病院へ行くことを養護教諭がしっかり行ってくれたので、処置については心配なかったが、体育の時間の中でのことだったので、保護者への説明に少し困った。
- ・出血、傷など目に見えるものでなく、痛みのみだったので、直ぐに対応するべきか困った。

中学校教職員

- ・養護教諭不在時の応急処置。管理職の立場として、症状から重症度の判断が難しい。
- ・午後診療をやっている病院でも、救急搬送であれば対応します、という病院が多く、保護者に病院の案内をしづらかった。ケガの大きさがそこまで大きくはなかったこと、直後の容態も安定していたため、救急車等の対応はしなかったが、通院のことを考えると、救急搬送を選択してもよかったのでは、と後で思った。
- ・患部の冷やし方が難しかった。
- ・保護者に説明する際に、病院に行く前にどのように、どの程度話せばよいのか難しいと感じた。特に本人があまり痛がっていない時に、軽く判断してしまうところがあるのではないかと。
- ・自分一人では緊急度が分からずに困った印象が大きい。
- ・養護教諭が不在であり、ほかの生徒への対応や寒いや熱い中冷却することの難しさを感じた。
- ・目の近くからの出血でしたので、止血の仕方だけでなく、血を目に入れないようにするのにどうするのがよいのか、また救急要請するために保護者へ連絡を入れる際、保護者の動揺が予想されたのでどのように説明するとよいのか、とても困った。

【質問 4 救急処置の知識】

・救急処置についてお聞きします。先生や児童生徒が以下のけがをした時、どのように対応しますか。

			正答率	
			小・中 (%)	養護 (%)
擦過傷	○	A. 傷口を水道水でよく洗う	83.1	100.0
	×	B. 洗わずに絆創膏やガーゼなどで傷口を覆う	90.0	100.0
	○	C. 傷口を清潔にした後、絆創膏やガーゼで覆う	74.2	90.0
	×	D. 傷口を乾燥させる	85.5	92.7
切創	○	A. 傷口を水道水でよく洗う	40.5	63.4
	○	B. 傷口を絆創膏やガーゼなどで押さえて圧迫する	85.1	100.0
	×	C. ガーゼは血が滲んだら速やかに交換する	67.7	73.2
	○	D. 出血している場所を心臓より高くする	68.9	97.6
	×	E. 指の根元を輪ゴムで圧迫する	96.1	100.0
鼻出血	×	A. ティッシュを鼻孔に詰める	61.4	95.1
	○	B. イスなどに座らせ、頭をやや前に傾ける	52.8	92.7
	×	C. 頭を後ろにそらせる	94.1	100.0
	×	D. 首の後ろをトントンとたたく	98.1	100.0
	○	E. 鼻の両側の鼻翼(小鼻)をしっかりとつまむ	61.3	100.0
熱傷	○	A. 流水で冷やす	95.3	100.0
	×	B. 衣服の上からやけどした時は、衣服を取ってから処置をする	71.0	97.6
	○	C. 患部を清潔なガーゼやタオルで覆う	32.0	85.4
	×	D. 消毒液・軟膏を塗布する	88.5	92.7
	×	E. 水疱(水ぶくれ)が出来た時はつぶす	100.0	100.0
捻挫	○	A. 患部を冷却する	94.3	100.0
	○	B. 患部を高く上げる	19.1	90.0
	○	C. 関節がぐらつかないように包帯で固定する	43.8	75.6
	×	D. 患部をマッサージする	99.7	100.0
顔面打撲	○	A. 患部を冷却する	78.5	100.0
	○	B. 歯の状態(ぐらつき、欠け、変形など)を確認する	88.4	100.0
	×	C. 歯が欠けたり抜けたりした場合は、よく洗って歯科医へ持参する	53.2	92.7
	×	D. 乳歯の場合は、特になにも行わず放置する	98.4	97.6
	○	E. 出血がある場合は、止血する	61.7	97.6
頭部打撲	×	A. 頸椎損傷の場合もあるので、首を動かして確認してみる	94.1	97.6
	○	B. 吐き気や嘔吐がないか確認する	94.3	100.0
	○	C. 1時間は安静にして経過観察する	55.7	80.5
	○	D. 患部を冷却する	59.0	100.0
	×	E. 意識が不明瞭となってきた場合は、体を揺り動かしたり刺激を与えるようにする	92.5	95.1
	×	F. 耳や鼻から血液や透明な液(髄液)が漏出した場合、詰め物をする	94.4	95.1
骨折疑い	○	A. 貧血を起こしていないか確認する(顔面蒼白、冷や汗)	78.5	100.0
	○	B. 患部を冷却する	67.6	95.1
	×	C. 変形部位を元に戻す	99.1	97.6
	×	D. 変形や関節の動きに異常がなければ骨折は疑わない	99.4	100.0
	○	E. 患部を心臓より高く上げる	10.8	56.1
	○	F. 固定後は最も楽な体位で休ませる	62.0	85.4

*本研究の「完全正答」「選択不足」「誤答選択」定義について

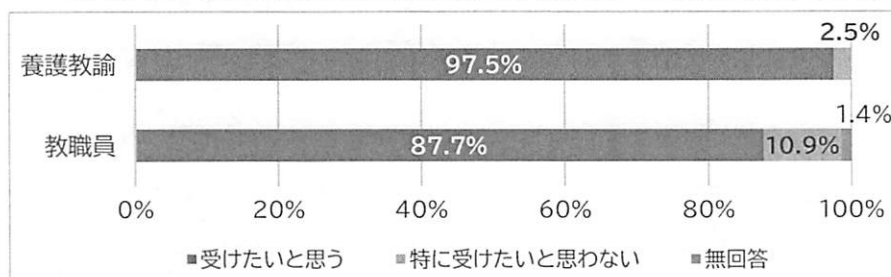
<例:鼻出血の場合>

- ・完全正答…B・E 両方選択できている
- ・選択不足…B・E どちらかしか選択できていない
- ・誤答選択…A・C・D 一つでも選択している場合

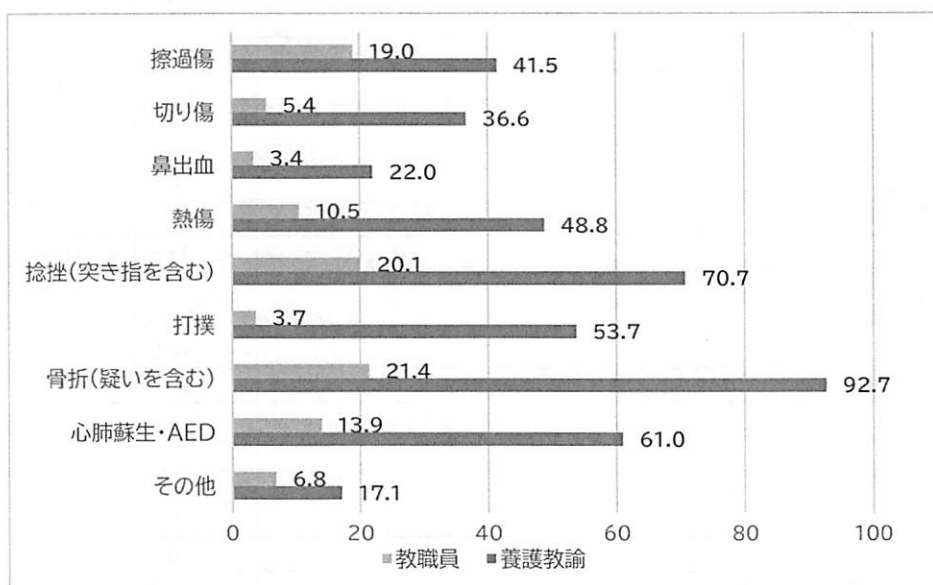
資料1-6

【質問 5 救急処置研修への興味】

・これから救急処置の講習を受ける機会があれば、その講習を積極的に受けたいと考えますか



・受けたい(学びたい)救急処置の種類は何ですか。(複数回答) (%)



<その他の内訳>

○教職員

- ・熱中症
- ・てんかん
- ・テーピング
- ・肉離れ
- ・頭部打撲
- ・目や鼻の強打
- ・歯が折れた
- ・口内のケガ
- ・ハチ刺れアナフィラキシー対応
- ・嘔吐のどに詰まらせた
- ・処置の変わったもの

○養護教諭

- ・眼球打撲
- ・アナフィラキシー
- ・歯牙破折や脱臼
- ・刺し傷
- ・歯や眼の強打
- ・足の爪強打
- ・心疾患や脳梗塞等
- ・流動性の出血の止血法

資料1-7

【質問 6 救急処置への疑問や知りたいこと等】

	教職員	養護教諭
具体的な処置の方法・不安	・学級、日常生活でも対応することが多い救急処置について(3) ・救命救急、養護到着までの初期対応(2) ・処置技術(絆創膏の貼り方、包帯の巻き方、テーピング方法、顔面、歯、やけど、過呼吸、低体温、骨折疑い) ・首から上の怪我の受診について(3)	・重症度の判断 ・家庭連絡の勘所 ・救急車到着までの対応 ・処置技術(三角巾を用いた固定法、毒虫、豆知識、湿潤療法)
受診・救急搬送	・救急搬送の判断基準・タイミング(4) ・診療時間外の外傷対応	・診療時間外の外傷への対応
知識の更新	・以前とは救急処置の方法が変わってきているので、最新の救急処置方法を学びたい(6) ・世間の通説と実際の処置で異なるもの(2)	・凝り固まった古い知識があるかもしれないので、更新したい
要望・確認	・正しい情報を得られるHPを紹介してほしい ・経験が少ない教員の研修 ・研修希望(5) ・生徒の個人情報の確認方法	・命に関わる事故等が発生したとき、落ち着いて適切な処置ができるスキルを獲得したい
役割分担	・担任と養護の役割分担について(2) ・大人がやることの優先順位と生徒に頼める仕事	・校内の救急処置対応の連絡体制の構築
その他事例	・ヒヤリハット事例を紹介してほしい ・協力を得られない家庭の生徒に自己管理をさせる手立て	・ヒヤリハット事例(2) ・ティースキーパー成功事例 ・エビペン成功事例 ・自傷行為事例

問2 以下の救急処置（外傷）について、あなたは適切に対応できると思いますか？

3. *

	そう思う	やや思う	どちらともいえない	あまり思わない	思わない
すり傷	☐	☐	☐	☐	☐
頭部打撲	☐	☐	☐	☐	☐
鼻出血	☐	☐	☐	☐	☐
顔面打撲	☐	☐	☐	☐	☐
やけど	☐	☐	☐	☐	☐
切り傷	☐	☐	☐	☐	☐
捻挫	☐	☐	☐	☐	☐
骨折疑い	☐	☐	☐	☐	☐

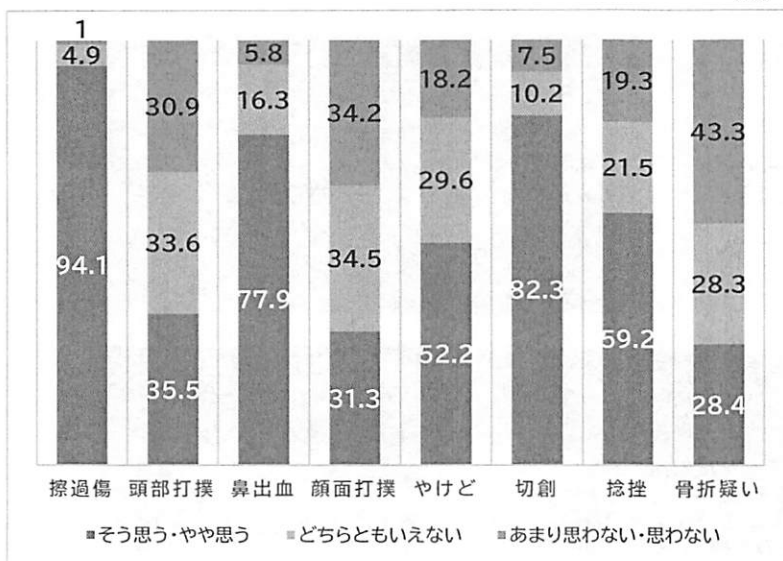
問3 あなたは救急処置を行うことについて、不安がありますか？

4. *

- ☐ とてもある
- ☐ 少しある
- ☐ どちらともいえない
- ☐ あまりない
- ☐ 全くない

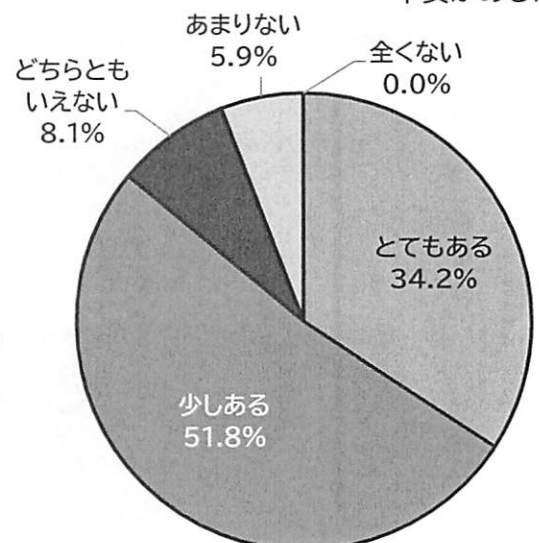
資料 2-2

【質問 2 救急処置について、適切に対応できると思うか】 (%)



資料 2-3

【質問 3 救急処置を行うことについて不安があるか】



けがの手当てクイズ

佐倉市教員
約300人に
聞きました！



佐倉市教員
正答率
23.8%
の問題です

鼻出血



正しい手当てだと思うものをすべて選んでください

【けがの手当てクイズ 回答用紙】

けがの手当てクイズ 回答用紙 ☐ の中に、正しいと思うものに○を、間違っていると思うものに×を記入してください。

すり傷

A 傷口を水道水でよく洗う	B 洗わずに絆創膏やガーゼなどで傷口を覆う
☐	☐
C 傷口を清潔にした後、絆創膏やガーゼで覆う	D 傷口を乾燥させる
☐	☐

頭部打撲

A 頸椎損傷の場合もあるので、首を動かして確認する	B 吐き気や嘔吐がないか確認する	C 1時間は安静にして、経過観察する
☐	☐	☐
D 意識が不明瞭となってきた場合は、体を揺り動かしたり刺激を与えないようにする	E 耳や鼻から血液や透明な液（髄液）が漏出した場合は、詰めの物をする	F 患部を冷却する
☐	☐	☐

鼻出血

A ティッシュを鼻孔に詰める	B イスなどに座らせ、頭をやや前に傾ける	
☐	☐	
C 頭を後ろにそらせる	D 首の後ろをトントンとたたく	E 鼻の両側の鼻翼（小鼻）をしっかりとつまむ
☐	☐	☐

顔面打撲

A 患部を冷却する ☐	B 出血がある場合は、止血する ☐	
C 歯が欠けたり、抜けたりした場合は、よく洗って、歯科医へ持参する ☐	D 乳歯の場合は、特に何も行わず、放置する ☐	E 歯の状態（ぐらつき、欠け、変形など）を確認する ☐

【けがの手当てクイズ 解説編（鼻出血）】

A ティッシュを鼻孔に詰める。

・鼻の粘膜にティッシュがくっついてしまい、外すときに一緒に粘膜が剥がれ、再出血することがあります。

B イスなどに座らせ、頭をやや前に傾ける。

・血液が喉に入らないように、頭をやや前に傾け、うつむくような姿勢を取りましょう。

C 頭を後ろにそらせる。

・鼻の奥は喉と繋がっているため、頭を後ろにそらせると血液が喉へ流れてしまいます。
・血液を飲み込んでしまうと、気持ち悪くなったり、ドロツと固まった血液で喉を詰まらせることがあります。

D 首の後ろをトントンとたたく。

・血液が喉にどんどん流れこみ、咳き込みや吐き気を起こします。
・特に高血圧による血管障害が原因の場合、後頭部をたたくのは大変危険です。

E 鼻の両側の鼻翼（小鼻）をしっかりとつまむ。

・鼻血の多くは鼻の入り口から1cmくらいのところにあるキーゼルバツハ部位からの出血です。小鼻を左右からつまんでしっかりと15分ほど止血しましょう。

教職員研修 実施後アンケート

問2 けがの手当てクイズを実施していかがでしたか

3. 擦り傷について *

	そう思う	やや思う	どちらともいえない	あまり思わない	思わない
対応に自信がもてた	☐	☐	☐	☐	☐
知識の確認ができた	☐	☐	☐	☐	☐
新しく知識を得た	☐	☐	☐	☐	☐

4. 頭部打撲について *

	そう思う	やや思う	どちらともいえない	あまり思わない	思わない
対応に自信がもてた	☐	☐	☐	☐	☐
知識の確認ができた	☐	☐	☐	☐	☐
新しく知識を得た	☐	☐	☐	☐	☐

5. 鼻出血について *

	そう思う	やや思う	どちらともいえない	あまり思わない	思わない
対応に自信がもてた	☐	☐	☐	☐	☐
知識の確認ができた	☐	☐	☐	☐	☐
新しく知識を得た	☐	☐	☐	☐	☐

6. 顔面打撲について *

	そう思う	やや思う	どちらともいえない	あまり思わない	思わない
対応に自信がもてた	☐	☐	☐	☐	☐
知識の確認ができた	☐	☐	☐	☐	☐
新しく知識を得た	☐	☐	☐	☐	☐

7. やけどについて *

	そう思う	やや思う	どちらともいえない	あまり思わない	思わない
対応に自信がもてた	☐	☐	☐	☐	☐
知識の確認ができた	☐	☐	☐	☐	☐
新しく知識を得た	☐	☐	☐	☐	☐

8. 切り傷について *

	そう思う	やや思う	どちらともいえない	あまり思わない	思わない
対応に自信がもてた	☐	☐	☐	☐	☐
知識の確認ができた	☐	☐	☐	☐	☐
新しく知識を得た	☐	☐	☐	☐	☐

9. 捻挫について *

	そう思う	やや思う	どちらともいえない	あまり思わない	思わない
対応に自信がもてた	☐	☐	☐	☐	☐
知識の確認ができた	☐	☐	☐	☐	☐
新しく知識を得た	☐	☐	☐	☐	☐

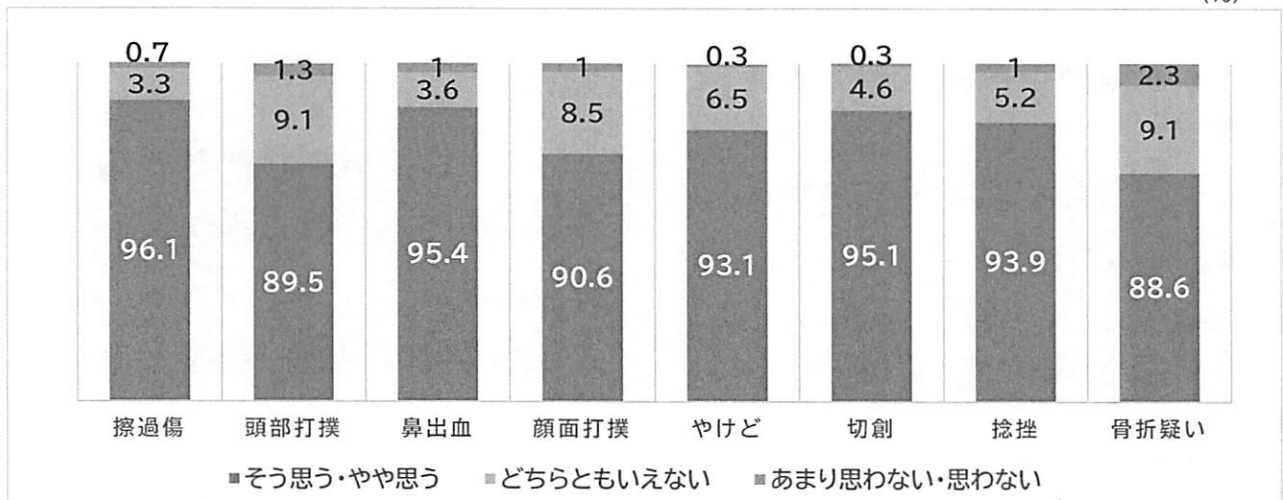
10. 骨折疑いについて *

	そう思う	やや思う	どちらともいえない	あまり思わない	思わない
対応に自信がもてた	☐	☐	☐	☐	☐
知識の確認ができた	☐	☐	☐	☐	☐
新しく知識を得た	☐	☐	☐	☐	☐

資料 4-2

【質問 1 対応に自信がもてたか】

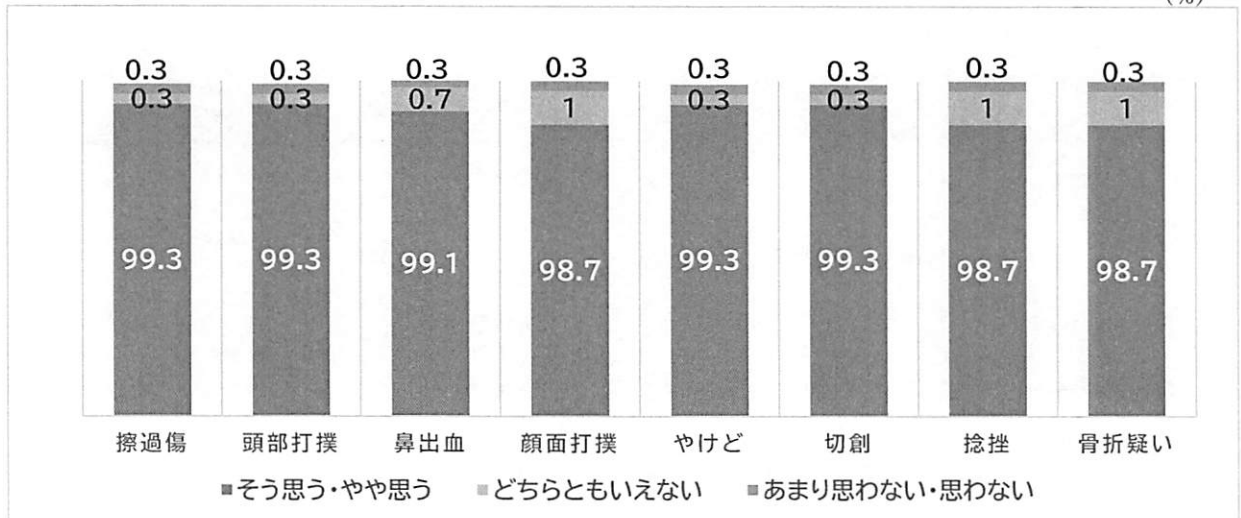
(%)



資料 4-3

【質問 2 知識の確認ができたか】

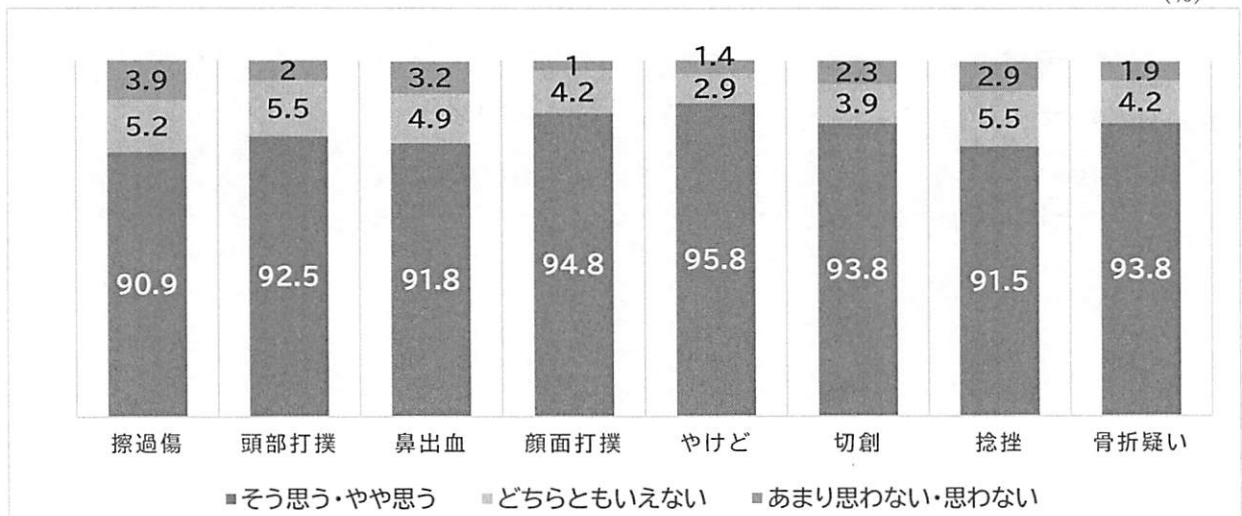
(%)



資料 4-4

【質問 3 新しく知識を得たか】

(%)



【質問 4 研修及び救急処置に関する感想等（一部抜粋）】

学びがあった・知識が得られた(82件)
・どれも起こり得るケガなので、正しい知識が得られて良かった。 ・処置として大きく間違っている知識はなかったが、勘違いしていたことや知らなかったことが少しずつあることがわかった。 ・いつ必要になるかわからないが、確実に必要になる対処法についてのポイントを絞って教えてもらえてよかった。
確認できた(46件)
・勘違いや自身の思い込みを改められたこと、再確認できて、自信が持てたこと、とても有意義な研修となった。 ・それぞれのけがに対応した手当を再確認し、その処置をする理由も確認できて大変勉強になった。 ・運動部の顧問なので、怪我をする場面にあうことはあったが、自信を持って対応することが出来なかった。これからも自信満で対応することはできないと思うが、改めて確認することができて良い機会となった。
わかりやすかった(34件)
・クイズ形式はコンパクトで分かりやすく、瞬間的に答えることでとっさの判断と同じ状況だったので、非常に良かった。 ・クイズ形式で興味が持ちやすかった。新しい知識を得つつ、自分が持っている知識のアップデートもでき、非常に良い研修だった。時間的にも集中できる内容だった。
意識の向上(26件)
・子どもと関わる仕事である以上、特定の誰か(養護教諭、体育科等)だけが対応するのではなく、教職員全員が対応するべきことだと強く感じた。 ・映像もわかりやすかったが、解説編の資料には、手当での仕方やその理由についても詳しく書かれていて、わかりやすかった。いつでも見られる場所に保存して、定期的に確認したいと思う。 ・知らなかったことや、誤解していた部分が浮き彫りになり、もっと知識をつけたいと思ったと同時に、教員として正しい知識と技能を身につけておく必要性を改めて感じた。
要望(19件)
・時間が経つと忘れそうなので、またクイズ形式で実施してほしい。 ・知識だけでなく、実践的な練習もしてみたい。
不安(12件)
・知識を確認し新しく知ることもあったが、やはりけがへの対応は自信をもって対応できるかと言ったらそうなる感じはしないかなと思った。 ・実際の対応になると、心配な点が多い。実際に起こってしまったときには、状況をよく判断して、連携を取りながら対応していきたい。

【研修前(適切に対応できると思いますか)と研修後(対応に自信がもてたか)の比較】

(%)

